



前回に続き「世界遺産」、それも復元文化財が初めて登録されたポーランドのワルシャワ歴史地区です。13世紀から形成された市街地で、その後も歴史の波で破壊や再建が繰り返されてきましたが、第二次大戦のドイツとソ連によるポーランド侵攻時のドイツ空軍の爆撃、その後のワルシャワ蜂起時のドイツ陸軍の爆破によって廃墟となりました。戦後、以前の都市風景画や建築学科学士の写生等をもとに、もともとの建物に使用された煉瓦はできるだけ再利用するなど再建が進められ、王宮も1970年代になって再建。復元文化財で、日本の幾つかの城の再建築と同様ですが、城だけではなく城下町をその当時の形に再建築し、それもテーマパークや記念館ではなく、重要伝統的建造物群保存地区と同様にその中で生活しながら保存されています。1980年の世界遺産登録の際、「復元文化財は登録に値しない」という見方もあった中で、「作り直してまで保存」している「街の復興にかける市民の不屈の熱意」が評価されたとのこと。少し北にキュリー夫人の改修中生家もありました。



ワルシャワへ遷都したジグムント三世の碑と王宮



旧市街市場広場 中央に剣と盾を持つ人魚像がある





文化科学宮殿

歴史地区から 2 kmほど南のワルシャワ中央駅の近くにソ連の置き土産・スターリン様式の建築「文化科学宮殿」があります。この様式の建築は、モスクワにはモスクワ大学、外務省やラディソンロイヤルホテルモスクワ（元ウクライナホテル）等 7 棟、ラトビアのリーガにも建っていました。チェコのプラハでは同様式のホテルに泊まったこともあります。旧ソ連邦内や東欧・中国・北朝鮮等に幾つも残っているようです。このワルシャワの「文化科学宮殿」は当初「スターリン記念文化科学宮殿」と呼ばれていて、今はスターリンの名前こそ消えたもののソ連支配時代の象徴的な建築として、こちらは市民の人気はないということでした。



ワジェンキ公園のショパン像



ショパンの生家



集成材架構の事務所棟



コウノトリの巣



ヤドリギもたくさん

ポーランドといえばショパンです。ワルシャワの聖十字架教会にショパンの心臓が保存されているそうです。街なかや公園にショパンの曲が再生されるベンチ（15カ所）もあります。中央駅からさらに南に2 km程のワジェンキ公園（ショパンコンサート会場になる）にはショパン像があります。またワルシャワ西約 60km のジェラソヴァ・ヴォラには、ショパンの生家（木造）がありピアノや楽譜などが公開されています。隣には集成材架構の事務所棟が建っています。ワルシャワからの往復バスと生家の入場料がセットされたチケットもあるようです。ワルシャワからの途中はポーランドの大平原で、人家のすぐそばにも春を告げるコウノトリ（世界中の約 4 分の 1 が同国で繁殖）の巣が幾つも見られました。

<google 地図参照>

歴史地区 <https://www.google.co.jp/maps/@52.2496114,21.0099644,16z>

文化科学宮殿 <https://www.google.co.jp/maps/@52.2301351,21.0072178,957m>

ワジェンキ公園 <https://www.google.co.jp/maps/@52.2147466,21.0247376,16.69z>

ショパン生家 <https://www.google.co.jp/maps/@52.2595337,20.2958501,14z>

(写真撮影：2016.04.06)

(2020.02.01)